３つの森林活動

みなさまの参加を
お待ちしております

小原本陣の森

第１・３日曜日

知足の森

第１・３日曜日

相模湖・嵐山の森

不定期活動

News Letter

NPO法人緑のダム北相模
midorinodam.jp

No.496-497

夏休み、様々な体験教室を実施

【定例活動報告】小原本陣の森

第１日曜日の活動より

今日も暑い一日になりそうだ。石井さんと農業体験教室の研修生、角田さんの参加で森林整備は4名での活動になった。

桂林寺に近い美女谷にある照手姫伝説の七つ滝渓谷の整備を小原推進協議会会長小林氏からの要望で、初めて渓谷に入り整備を行うことにした。

見ると七つ滝は六つしか無く、落葉や倒木更に真竹の繁茂と竹の倒竹で単に荒れ果てたそこらにある沢でしか無かった。照手姫伝説の看板が泣いていると思った。

沢の左岸が経路になっており鎖場や土嚢の造作が為されているが危険な状態であり、観光客も期待外れになるのではないかと感じた。

緑のダム北相模は相模原市内で活動する森林ボランティアです。急がず、無理せず、楽しく、休まず、 ボチボチと・・。

一方、右岸は落葉と倒木、倒竹で相当な荒場になっていたので、まずここを整備することにして作業に入るが、崖地で急峻で転落しながらの作業なので、ロープを腰に巻いて支えながら安全を確保しながらの作業でした。沢を横断した倒木が数本あり、これらの倒木を片付けると視界が開け元来の景色が戻ってきた。

滝も七つになった。たまたま照手姫の看板をご覧になった登山者にすれ違った。

「七つの滝はご覧になりましたか？」と聞くと「六つでした。」との返事だった。

まだまだ作業は続けなければと全員が思った瞬間でした。時間も来たので無念を残して、本日の作業を終了することとした。とても気持ちの良い一日であった。

小林　照夫（本会、理事）

第３日曜日の活動より

神奈川県立深沢高等学校のインターンシップは今年で第５回目（5年目）になる。
今年の受講生は4名（男3名・女1名）の参加でした。午前9時予定通り全員がJR相模湖駅に集まってきた。
今年は暑い日が毎日続いているが、本日は気持ち凌ぎやすい朝を迎えている。

今日の予定は、午前中は長福寺さんの森林での間伐体験実習と下草刈り。午後は学芸大附属中学生と、先輩OBの皆さん２０名と合流し町営グランドでの「流しそうめん大会」である。

長福寺で装備の着用を済ませ、緑のダムから指導員4名参加１：１の安全重視の指導体制で臨んだ。15年～20年生のヒノキ林に入り、選木を学びノコで間伐一人1本を目指して開始した。
このエリアは北向きの斜面にあたり又整備不足のため、全体的に生育が遅れている林である。

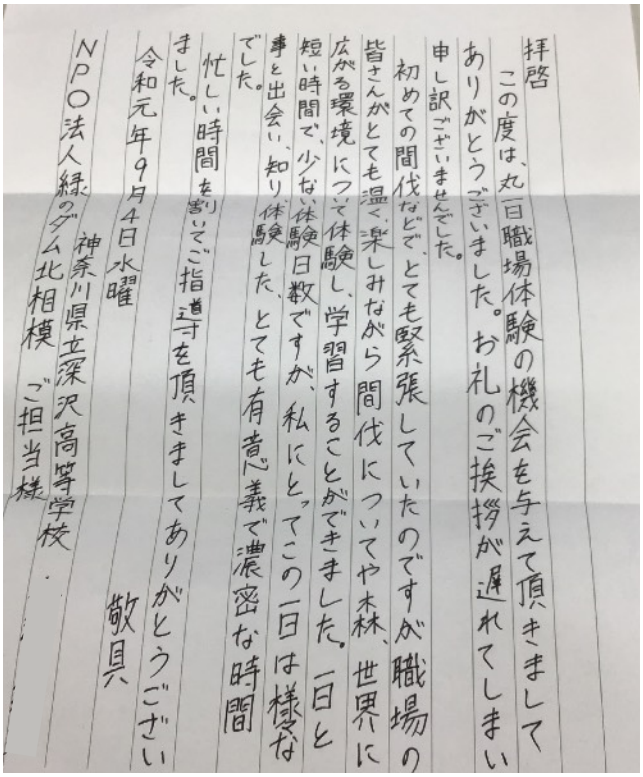
直径は４寸程度の欠頂木を選木したが、密集林のため伐倒方向が難しくロープワークで凌ぎ、若い力でやり遂げてくれた。熱中症にならないよう水分補給を欠かさないよう注意した。

少し遅れたが、皆さんが準備して頂いた「流しそうめん」に合流し、空腹を満たして頂いた。そうめんの他、グミやミニトマトなど工夫か嬉しかったと感想でした。

インターンシップの受け入れも緑のダムの定例活動になってきた。今後は若い人を指導者に育て新たなインターンシップ高校の受け入れを増やし定番化していける様積み上げて参ります。

小林　照夫（本会、理事）

お礼のお手紙をいただいたのでご紹介します



拝啓
この度は、丸一日職場体験の機会を与えて頂きまして
ありがとうございました。お礼のご挨拶が遅れてしまい
申し訳ございませんでした。
初めての間伐などで、とても緊張していたのですが職場の
皆さんがとても温く楽しみながら間伐についてや森、世界に
広がる環境について体験し、学習することができました。一日と
短い時間で、少ない体験日数ですが、私にとってこの一日は様々な
事と出会い、知り体験した、とても有意義で濃密な時間
でした。
忙しい時間を割いてご指導を頂きましてありがとうございい
ました。
令和元年9月4日水曜
敬具
神奈川県立深沢高等学校
NPO法人緑のダム北相模　ご担当様

【定例活動報告】知足の森

第１日曜日の活動より

第１日曜日の活動は小金井市公民館ぬくい北センターの講座で、森の居場所づくりをテーマに活動を受け入れた。参加者は暑さのためか、少なめであったが、前々日に行った座学に続き、全員が集まった。普段参加の中高大学生チームが指導に入り、午前は小さめの間伐体験、午後は沢の奥の枯れてしまっている木を２本を２チームに別れて間伐体験を行なった。この企画は三鷹二中で３年間活動し、高校生になっても参加してくれている生徒のうち２名がリーダーとなって準備を進めてきた。今回はその感想もご紹介します。

宮村　連理（本会、副理事長）

今回、小金井公民館貫井北分館主催の森林ボランティアのイベントに携わった。普段の地球環境部の活動―間伐などの森林整備―を、初参加者に体験してもらおうという取り組みだ。いつもと違うのは、初対面に近い人と協力して作業を進めなければいけないことと、それを踏まえ自分たちで活動内容の詳細を決めること。打ち合わせでは、私と宮田さん以外全員大人の中で自分の意見を言い、物事を決めていく。そんな経験は今まであまりなかったので、とても刺激的だった。

イベント当日、初対面に近い人達どうしでも、意外にうまく進められた。「初対面」であることを言い訳にしないで、自分にできる仕事を探して取り組んでいくことが、チームワークの秘訣かもしれない。とにかく、協力しようという気持ちが大事なのかな、と思う。

また、見えてきた課題もある。今回のイベント、わりとたくさんの学校にチラシを配布し、ＳＮＳで発信もしたのだが、参加者数が極端に少なかったのだ。次このようなイベントに携わるなら、広報のしかたも工夫したい。

濱田　真帆（錦城高校１年）

第３日曜日の活動より

第３日曜日の活動は、土日の連続開催で、沢体験と流しそうめん大会を行った。これまで小原地区を中心にいくつかのプログラムを組み合わせ１泊の体験活動としてきたが、より地元の、より地域の方が参加しやすく、という視点のもと、１日目は沢体験、２日目は竹林整備と流しそうめん大会とした。２日目は小林さんの報告にもあるように、神奈川県立高校のインターンシップ生も合流して行うことができた。１日目はルートの探索、安全確保のための整備活動、ライフジャケットの用意、民泊施設の活用などこれまで会の活動ではなかったものも多く、試行的な部分も大きかったが、活動最後の砂防ダムからの飛び込みこはやはり夢中になる子どもたちが続出で時間の許す限り何度も飛び込む姿が印象的だった。２日目の流しそうめん大会は、望星高校から多くの参加があり、道路公団から地域で活用してほしいと提供された斜

面のお花畑とその下の竹林整備も兼ねていた。竹林はかなりの時間手が入っていないようで、久しぶりに見る荒れた竹林で、この整備だけでもかなり活動できそうである。竹林整備は切って倒して、きれいにする達成感に比べれば安全性の高い作業なので、初参加の人には向いていると思う。暑さにだけ気をつけ、あっという間に午前が過ぎ、午後からの流しそうめん大会となった。企画、チラシ作りから関わってくれた高校生の報告を若者の森づくりの部分で報告します。

宮村　連理（本会、副理事長）

桜井尚武の森のコラム

「サルナシ(*Actinidia arguta*)」

図1. サルナシの果実

20070803富士山樹海

図2. キウイフルーツ

20180819高崎の農園

前に紹介したマタタビ（*A.polygama*）と同じマタタビ科マタタビ属の蔓性木本です。嵐山にあるマタタビを昨年秋に食べてみたら意外においしくありませんでした。しかし、このサルナシは美味しい。北海道ではコクワと呼ばれて親しまれています。でもこれも私の経験ですが、数粒食べるのはいいけれど10粒以上食べると舌にザラツキが残りました。ヒメコウゾの実を食べた時のような感じです。充分に熟していなかった実を食べたせいかもしれません。

分布は日本全土で山地に普通ですから、これからの秋に果実を味わう機会があるでしょう。中国原産でニュージーランドで育種されて世界に広まったキウイフルーツ(*A.chinensis*の園芸種)は本種の近縁種だそうです（図2）。

葉はやや厚く葉柄や若い枝は赤みを帯びています。ツルは太くなり直径15cm以上になるものも見られ表皮は薄茶色で不揃いに縦裂して薄い裂片に剥がれます（図3）。また丈夫で腐りにくいのでロープの代わりに使われます、筏を作るのにも使われたそうです。徳島県祖谷川にかかる蔓橋はこのサルナシの蔓で作られています（図4）。

サルナシは別名シラクチヅルといいます。古い言葉で「シラクチ」とはサルを指す言葉でした。今でも西日本にサルを「マシラ」と呼ぶところがありますが「マシラクチ」からシラクチに転じたとする情報もあります。どれからもサルの好む蔓（果実）という意味が窺えます。この果実から酒を造ったという故事がありサル酒の伝承の起源のようです（塩尻市木曽楢川特産「さるなし」の実を使ってできたワイン、があるそうです）。

桜井　尚武（本会、会員）

図3. サルナシの樹皮

2080214玉原

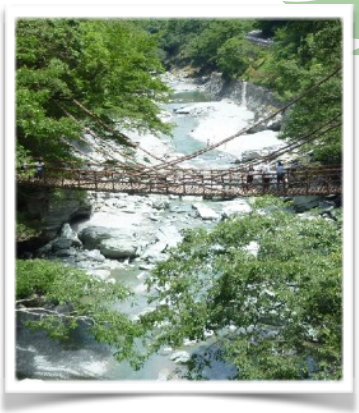


図4. 祖谷の蔓橋

20150806徳島県祖谷

【若者の森づくり】地球環境部

体験学校の計画をしてみて、一から考えて企画する大変さを知った。また、実際に私も小学生と体験学校に参加し、とてもやりがいを感じられ充実した活動になった。

私は体験学校のチラシ作りを行った。企画の内容を小学生でも伝わるように文章を考えたり、レイアウトや色の構成など話し合い工夫しながら取り組んだ。初めてということもあり、段取り良く作業ができていなかったので、また企画を持つ機会があったら今回の計画で学んだ点や反省点を活かしてより良いものを創っていきたいと思う。

猪野　明日香
（八王子学園八王子高校１年）

【若者の森づくり】ForesTo Class

森林体験キャンプイベントの準備
～高尾山から相模湖への登山道下見～

今月は8月31日に森林整備体験を実施するため、萩山の事前整備を行いました。

3年前に一度整備を完了しましたが、しばらく手を入れていない事もありだいぶ下草が繁茂していました。当日の内容は間伐体験を実施、丸太ストーブの作製までを行います。またその時にも可能限り下草刈りを実施したいと思います。

その後、事前に作った乾燥済みの丸太ストーブを運んでキャンプ場で燃やし、デモンストレーションを兼ねてバーベキューの実施。

森林の利用価値を高められればと考えています。

18日の午後からは、山を歩くプログラムも考えていたため、高尾山口へ移動して実際に相模湖まで歩いてみました。

高尾は駅から山頂までコンクリート舗装されており、都心から気軽に山を感じられる場所だと実感しました。

観光スポットとしてもお店もたくさんあり賑わってました。

小仏城山山頂から相模湖へ降りましたが、やはり小原へのルートがなく道路を歩くところが残念だと感じました。

今回のイベントでは時間と体力的に難しいためプログラムからは外しましたが、今期中には山歩きイベントも企画していきます。

滝澤　康至（ForesTo Class）

【若者の森づくり】
Forest nova

今月は8月15日に緑のダムの流しそうめんに山口と長谷の2人で参加させていただきました。まず始めに流しそうめんで使う用の竹を切りにいきました、長谷くんが竹を切るのは初めてだったのですが、すぐにこつをつかんで手慣れた様子で竹を切っていました、竹を切ったあとは竹を切り中をくりぬきました、そのあとはみんなと相談して竹を滝のように設置しました初めは水の流れが速すぎて上手くできませんでした、しかし角度の調整やバケツの位置などを調整して上手く行うことができました。

山口　拓海（Forest Nova）

【事務局から】

積み木イベントに協力します

９月２１日からの３連休に、横浜市営地下鉄センター北駅直結のノースポートモールで行われる積み木イベントに協力します。このイベントNPO学芸大子ども未来研究所との協働で実施します。当日は地球環境部の高校生以上スタッフも入ります。小学生向けのイベントではありますがぜひお越しください。詳しくは同封のチラシをご覧ください。

緑の募金

SEKISUI HOUSE
MATCHING PROGRAM

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前に集合です。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、昼食

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人
緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
現地事務局：〒252-0172　相模原市緑区与瀬本町12　かどや食堂内
発行人：NPO緑のダム北相模
支援団体：セブン-イレブン記念財団
積水ハウスマッチングプログラム、国土緑化推進機構

協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、
東京学芸大学環境教育研究センター、
（社）さがみ湖 森・モノづくり研究所、ウッドバンク㈱